

## 日米 大規模空挺訓練を実施

*U.S., Japan perform large-scale airborne exercise*

February 1, 2022

By Senior Airman Bricana E. Bolfing  
374th Airlift Wing Public Affairs

第374空輸航空団は、1月25日から26日にかけて行われた「エアボーン22」で、陸上自衛隊第1空挺団に所属する隊員を支援した。

「エアボーン22」は、米空軍と陸上自衛隊の間で毎年行われている最大規模なスタティックライン空挺降下および物料投下訓練である。

当訓練では、横田基地第36空輸中隊から11機、テキサス州ダイエス空軍基地からの2機のC-130Jに、陸上自衛隊員約500人が搭乗し、富士演習場の投下地帯で空挺降下訓練を行った。

また模擬の物資を搭載したコンテナ・デリバリー・システム100梱を、米空軍C-130Jから富士演習場の6つの異なる投下地帯に投下した。燃料、水、食料、弾薬各種の模擬の物資は、陸上自衛隊の地上作戦を直接支援した。

第36空輸中隊教官パイロット兼「エアボーン22」の指揮官ジョーダン・バーブ大尉は、この相互運用のミッションは、陸上自衛隊が必要とするすべての空挺降下演習を行うための素晴らしい機会を提供すると述べ、第36空輸中隊の前方展開攻撃能力を演練する機会にもなっていると言う。

「エアボーン22」では、米空軍と陸上自衛隊が降下地帯に大規模な部隊を投入する能力を実践する。そして、自由で開かれたインド太平洋地域への同盟国の強固な取り組みを重視しながら、米空軍と陸上自衛隊の統合部隊を迅速に展開する能力を展示するものである。

第39空輸中隊C-130Jパイロット兼「エアボーン22」司令官のオードリー・クリスモン大尉は、「(今回の演習の成果は)場所や部隊を超えて、我々が日々演練している戦術、技術、手順が効力を発揮し、非常にうまく機能している証だ」と述べた。

